

# 小さなエコの大きな意味と信仰

すべてのいのちを守るために

吉川 まみ  
上智大学教授

## ③ 日々の生活排水と ささやかな善が育む平和

### 日常生活のささやかな 行為にみる環境問題のタネ

一般的に、私たちがよくネットで見かけたり、報道で取り上げられたりしている環境問題の科学的根拠の情報は、国際会議で議論の根拠に上げられた報告書や会議の成果文書などを基にした「政策決定者向け」のサマリー（要約）であることが少なくありません。

つまり、そもそもエコ実践の促進を目指して一人一人の生活者に向けて取りまとめられたわけではない資料を見て、自分に何ができるかと考えても途方に暮れてしまうのは当然のことです。地球環境にはとても複雑なシステムがあり、環境問題が生じる原因も複雑に絡み合い、この環境問題の原因はこれというようにシンプルに結論付けられるようなものでもありません。

前回は、地球にはそもそも人間が侵してはならない掟があること

をお伝えしましたが、自分の日々のライフスタイルに注目し、日々のささやかな行為が、掟ある自然界にどんな影響を及ぼしているかをたどっていく方が、身近で具体的な実効力あるエコ実践の方法を見つけやすいものです。

### いのちの水と日々の生活排水

教皇フランシスコは、2018年の「被造物を大切に作る世界祈願日」のメッセージで、水のことを「はかりしれないほど貴重な宝」と表現しています。川や海の水、南極・北極の雪水、水蒸気など、水は個体・液体・気体と多様な姿形で循環しながら、地球と地球上のあらゆるいのちを育み支えています。

海は、地球の表面積の約7割を占めていますが、海洋プラスチックごみ（以下プラごみ）のように、海は陸域の人間の生活圏内で循環させられなかった物、人間の生活にとって不都合な物があちこち移

動して最後になだれ込んでいく場でもあります。水質の汚染と言えば、日本では高度経済成長期の工業排水による水質汚濁のイメージが定着しています。

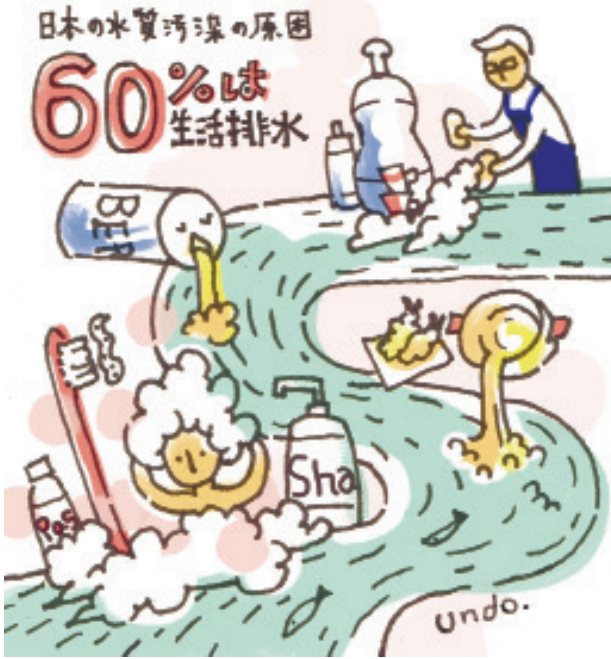
しかし、前号でもお伝えしたように、環境省によれば現在の日本の水質汚染原因の60%は一般家庭のキッチンや洗面台、風呂場など、排水口からの生活排水の汚れが原因だということです。生活排水は、ある程度は下水道設備や浄化槽で処理されるとしても、河川を流れてやがて大海に注ぎ込みま

すから、故意に物をポイ捨てしていなかったとしても、家の中で、どのように水を使っているか、排水口から何を流しているかが環境汚染に直結しているのです。

### 生活排水と地球温暖化

生活排水には、水の自浄作用を著しく低下させる残飯、天ぷら油や合成洗剤など、私も、毎日誰もが悪気もなく流してしまっています。例えば、ビールがおいしい季節ですが、コップ1杯約200mlのビールを水生生物が生きられるような水質に戻すためには、200

mlの浴槽1杯分もの水が必要になります。これが、使用済みの天ぷら油であったら、必要な水の量は浴槽200杯分です。また、プラごみとはペットボトル



(カット=安藤みちこ)

ルなどプラスチック製品のごみだけではなく、一部の洗顔フォーム、歯磨き粉などに含まれる、マイクロプラスチックという微粒子のプラスチック素材も含まれます。つまり、こうした日用品を使用するたびにプラごみが排出されていることとなります。さらに、ポリエステルなど化学繊維の衣料品を洗濯するたびに洗濯排水にマイクロプラスチックが飛散することがさまざまに研究で明らかにされています。

下水処理にはエネルギーが必要ですから、生活排水が汚れていればいるほど、その処理過程で排出される二酸化炭素（温室効果ガス）の一つ）によって温暖化が助長されます。最終的に、日常生活から流れ出た多様なごみは海に注ぎ込み、海洋生態系に負荷をかけるとともに、二酸化炭素吸収源としての海の水も劣化させます。

### 社会に平和をもたらし「善」と ささやかなエコ

教皇フランシスコは回勅『ラウダート・シ』の中で「プラスチックや紙の使用を避けること、水の使用量を減らすこと、ゴミを分別すること、食べられる量だけを調理すること、他の生き物を大切にすること、公共交通機関を利用したりカー・シェアリングをしたりすること、植林をすること、不要な電気を消すこと」（211）な

ど、そもそもゴミを出さないための「省資源」を中心に、誰でもが日常生活の中でできる小さなエコ実践を具体的に挙げています。

こうした小さなエコ実践が「人間の中にある最善のものを引き出してくれる、寛大で価値ある創造性を反映」（同211）し、「すくなく使い捨てずに再利用することは、わたしたちに固有の尊厳の発露たる愛の行為」（同211）だと述べています。そして、「こうした努力では世界は変えられないだろう」と考えてはなりません。そうした努力は気づかれないこともしばしばですが、目には見えなくても必ず広がるであろう善を呼び出すがゆえに、社会にとって益となります。さらにまた、そうした行いが、わたしたちに自尊心を取り戻させることもあります。また、より充実した人生を送らせ、地上の生活が労苦に値するものと感じさせることもできるのです」（同212）と、ささやかなエコ実践の大きな意味を説いています。

ささやかなエコは、一人一人が大海の一滴となれるかどうかにかかっています。それは文字通り、日常生活で接する水の一滴一滴を「はかりしれないほど貴重な宝」として大切に使えるかどうか、排水口に水を流して、どのように自分の手を放すのか、先々の水の循環をどれだけおもんばかれるかが問われているのだと思います。